



持続可能な消防団へ全団員に 意識調査の実施を

塔村俊介 議員

町長 声を広く聞き、消防団本部の
皆さんと協議し町長としても考える



問 消防団について議会では久しぶりに取り上げさせていただく。持続可能な消防団をつくるために、何が必要であるかを論点に町民の方に役割を知ってもらい、若者に消防団に入ってもらえるきっかけになればと思う。消防団に期待している役割は何か。

答 災害の形態が複雑化、大規模化する中で、最も身近な防災の機動力である消防団の活動は重要になっていく。必要不可欠な存在である。

問 少子高齢化社会が進む中、消防団の現状と将来の見通しは？

答 総務課長
現在消防団員数は定員

問 担い手が少なくなる中、団員の負担が大きくなっているのも事実である。消火・防火、災害救助もわかる。しかし、操法大会は様々な選択肢があるのではないかと。町操法大会を廃止した町もあるし、県大会も全市町村が出場している訳ではない。消防団に対しての意識調査を全団員に対して実施する考えはないか。

答 提言にあつたいろいろな声を広く聞きながら、消防団本部の皆さんと協議し、町長としても考える。

問 操法大会を全否定する訳ではないが、一度いろんな意見を吸収し、話し合う機会を持つてほしい。

65名に対し、59名が在籍し、充足率は97.4%である。現団員の平均在団年数は10年3ヶ月、合併後に退団された団員の平均在団年数は14年である。人口予測では合併時を100とする10年後には82となり、定数に換算すると65名の減少が推測される。

問 団員は消防団に対し、どのようなイメージを持っていると思うか。

答 いろんな苦労があると思うが、職場や家族の理解を得ながら組織としてやっていくのが消防団活動の原点であると思う。地域の絆やリーダー育成にも繋がっている。

問 1年に150人も人口が減っている状況では、昔のようなことにはなりにくい。また、主要産業である公共事業も厳しい中では、有効な政策が必要である。どのような重点分野に取り組んでいくのか。

答 奥出雲ブランドでいえるようなものが成長産業としてやっていけると思う。農林商工の連携による産業振興、バイオマス、福祉、観光など仕掛け作りをしていきたい。

問 福祉について、民主党も環境・福祉が重点分野というが、イメージが掴みにくい。町長はどのような福祉産業のイメージを持っているか。

また、定数や分団の再編も検討してほしい。定数の偏りもあり、2回目の入団ということもある。10年間はビシッと働いて後は後輩に任せるといふ体制になれば入団する人も増えるのではないかと。

問 2点目に産業振興について。総合計画のアンケータでも働く場所の確保、産業振興は、重要度が高く満足度が低い項目である。まずはじめに、町内の雇用情勢について問う。

答 いろんな機会を通じて状況を把握しているが、7、8割は回復していると思う。

問 健全経営も旨としながらも、雇用を維持し、可能性を幅広く検討したい。

答 健全経営も旨としながらも、雇用を維持し、可能性を幅広く検討したい。

※例えば奥出雲振興であるが、玉峰山荘、サイクリングターミナル、ヴィラ船通山と3つの宿泊施設を抱える中では、ヴィラの冬期休業や赤字経営からは脱却しにくい。職員提案にあつたように、リフォームをする、夫婦での経営者を募集するなど大胆な取り組みが必要。また、大きくなり過ぎた三セクの軟着陸を考えなければならぬ。

ジを持っているか。

答 老人福祉から取り組める。改善する部分が多くとニッチな部分に需要があると考えられる。子育てや環境レンジャーもある。

問 子供の数が減る中、また、幼稚園、保育所が一体化される中では、雇用者は少なくなる。そして、全国的には老人福祉産業は成長するが、老人人口が早期にピークに達する奥出雲町では、施設も増やしづらい。雇用を拡大するにはホスピスや田舎型有料老人ホームなど一歩踏み込むことが必要。役場の職員を含めた支援体制を整えてもらいたい。第三セクターの今後の方向性はどうか。